



今号からウェブサイト『VIEW next ONLINE』と連動する形で連載がスタートしたコーナー『中核的な概念』の理解が深まる授業デザインの取材のため、先日、富山県立魚津工業高校を訪問しました。上の写真はその道中で撮った、雲に覆われた立山連峰です。富山県は私の出身地で、幼い頃から見慣れた景色でしたが、その日は新鮮な気持ちで眺めました。

高校生にとって勉強は、時に不安や迷いを感じさせるものかもしれません。まるで雲の中にいるように、何を目標に、どう行動すべきか、自分自身を見失うこともあるかと思いますが、努力を続けることできっと答えは見つかり、明るい未来が開けるはずです。私も大人になった今でも、困難に直面した時には立山の雄大な景色を思い出し、気持ちを落ち着かせ、乗り越えるための力に変えています。生徒たちも、自分の心の支えとなるものを見つけ、それを大切にしながら、一歩ずつ前進していくってほしいと願っています。(伊藤)

## アンケートのご協力のお願い

2026年度『VIEW next』高校版の誌面の検討にあたり、アンケートのご協力をお願い申し上げます。アンケートに回答していただいた方の中から抽選で200名様に、謝礼として「図書カードネットギフト」500円分をメールでお送りします(謝礼不要とご回答された方を除きます)。下記のいずれからアクセスし、詳細をご確認ください。

- ▶『VIEW next ONLINE』トップページ「ベネッセからのお知らせ」
- ▶ <https://view-next.benesse.jp/fix/info/article08276/> ▶2次元コード
- 回答の締め切り  
2025年12月25日(木)



## VIEW next

高校版 2026年2月号

2月10日発刊  
(予定)

# Reader's VIEW

## 2025年9月号へのご意見

先生方からの  
ご意見を  
紹介します

### 情報活用能力の育成は、カリキュラム・マネジメントが基盤

多くの学校は、情報活用能力の育成を教科横断的な視点で十分に行えておらず、情報科や特定の教師の指導力に頼っている状況ではなかろうか。9月号の特集の記事を読み、その状況を見直す必要性を改めて突きつけられた思いだ。ただ、見直しは「情報活用能力の育成」の視点のみで進めることは現実的ではなく、より大きな視点でのカリキュラム・マネジメントが基盤になると見える。こうした基盤があるからこそ、事例1 東京都・私立山崎学園富士見中学校高校、事例2 三重県立名張青峰高校、事例3 兵庫県・私立雲雀丘学園中学校・高校の各校は、情報活用能力の育成についても教科横断的に取り組むことができているのだと思う。教師間の合意形成がいかに重要であるかを考えさせられた。 愛知県立大府高校 野々山

### 「情報活用能力の育成」の視点で授業を捉え直す

9月号の特集の課題整理・中京大学の泰山裕教授の記事で、「情報活用能力の育成において求められているのは、単純に新しい指導を加えるということではなく、これまでの授業を『情報活用能力』の育成の視点で捉え直し、その視点をより意識して授業を行うこと」という部分に共感した。事例1 東京都・私立山崎学園富士見中学校高校の「公共」の実践例にあった、書籍や新聞の検索、意見文の投稿といった活動自体は、目新しいものではないかもしれない。ただ、「情報活用能力の育成」の視点で捉え直したこと、「発信には責任を伴う」という観点も指導に加えられたように思う。自分の授業と情報活用能力のかかわりについて考え、その育成を目指していきたい。

愛知県・私立滝中学校・滝高校 井戸康貴

### 記事の解説を基に、評価方法をシミュレーションしたい

9月号の特別企画「次期学習指導要領における『主体的に学習に取り組む態度』の評価の改善の背景と方向性」の記事は、分かりやすく、信頼できるソースの記事として校内で共有できると思った。記事で解説されていた評価のあり方を念頭に、本校での評価方法を現時点の評価材料でシミュレーションしておきたい。

静岡県 匿名希望

### どの学力層の生徒にも、教師の伴走が不可欠

「進学校の生徒は主体的に学び、主体的に行動する」とイメージする教師が多いように感じるが、9月号の「指導変革の軌跡」の長崎県立松浦高校の記事を読み、希望進路の実現へ向けた教師の伴走があるからこそ、生徒は心強く学びに向かえるのだと気づかされた。生徒の憧れにもなる大学生の力を借りることで、生徒により高い進学意欲を醸成しようという教師の考えも素晴らしいと感じた。

長野県 匿名希望

### 情報を活用し、生徒に最適な進路指導を効率的に進めたい

総合型・学校推薦型選抜の受験希望者が増え続ける中で、教師の負担も限界に近づいてきている。9月号の「大学入試トレンド解説」の「現3年生のデータから見える、今後の進路・学習指導のポイント」の記事で紹介されていた「教科学力で合否が決まる募集単位・決まらない募集単位」を活用し、生徒一人ひとりに最適な進路指導を効率的に進めたいと思った。

和歌山県立橋本高校 寺田順子